

むずかしい漢字とことば

西之表(にしのおもて)

込(こめ)

指南役(しなんやく) = 武術・芸能などを教え示す人。指導者。

宮中行事(きゅうちゅうぎょうじ) = 天皇が、国が平和で栄えるよう願っておこなう行事。

払(はらい) 離(はな)れた 狙(ねら)う

満(み)つれば欠(か)くる = 満月のあとは必ず欠けるように、物事は盛りに達すれば必ずおとろえはじめるというたとえ。

戒(いまい)め = あやまちなないように、前もつてする注意や警告。

榕城(ようじょう) 風邪(かぜ)

西之表 栖林神社 式的始大の願い平安



儀式にのっとり矢を放つ射手
=11日夜、西之表市の栖林神社

西之表市の栖林神社で11日夜、室町時代から500年以上続く県無形民俗文化財「式的始大」があった。射手6人が種子島の平安や無病息災の願いを込め、36本の矢を放った。

島主の種子島家が招いた弓術指南役が、1501年に宮中行事を伝えたのが始まりとされる。射手は弓で天地を払い、28層離れた直径175メートルの的を狙う。35本を射た後は「満つれば欠くる」の戒めに従い、最後の1射はわざと外した。式的始大の風に当たると病気をしないとの言い伝えがある。父が射手を務めた榕城小学校5年の山下悠真さんは「生き生きしてかっこよかった。矢の風を感じられたので、今年も風邪をひかずに元気にすごしたい」と話した。

2025年1月13日付11面

【問1】 「式的始大」は、どこであったのでしょうか。

西之表市の栖林神社

【問2】 「式的始大」は、いつの時代から何年以上続いているのでしょうか。

室町時代から500年以上

【問3】 「式的始大」は、射手がどんな願いを込めて矢を放つのでしょうか。

種子島の平安や無病息災の願い

【問4】 「式的始大」の始まりとされるのはどんなことでしょうか。

島主の種子島家が招いた弓術指南役が、
1501年に宮中行事を伝えたこと

【調べてみよう】 身近な地域の伝統行事について調べてみよう。

